

研究機関紹介 トルコ宗教財団イスラーム研究センター (ISAM)

著者	小笠原 弘幸
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	48
号	4
ページ	102-108
発行年	2007-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00041049

トルコ宗教財団イスラーム研究センター (İSAM)

おがさわら ひろ ゆき
小笠原 弘 幸

- はじめに
- I 小史
- II 図書館
- III 『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』
- IV その他の出版活動
- V シンポジウム等
- VI 休憩所、アコモデーション等

はじめに

トルコ宗教財団イスラーム研究センター

(Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Araştırmaları Merkezi, 略称 İSAM) は、イスタンブールのアジア側、ボスフォラス海峡を渡ったウスキュダル地区の丘を登ったところに位置するバーラルバシユ (Bağlarbaşı) にある。バーラルバシユのメイダン (広場) から、アルメニア人墓地やマルマラ大学神学部とは反対側の通りを入れて少し進むと、3つの建物が扇状に広がった赤茶色の建築物がみえてくる。そこが本稿の対象とするトルコ宗教財団イスラーム研究センターである



写真1 イスラーム研究センター全景 (İSAM提供)

(写真1)。

本センターは、出版・研究活動や史資料収集の点でトルコ随一の規模を誇る研究機関だといえる。年間予算は300万ドル、研究者数は25人という規模である。特に歴史、宗教的分野の研究者にとって、その利用価値は極めて高い。本稿では、このトルコ宗教財団イスラーム研究センターの活動と利用方法について紹介していきたい。

I 小史

トルコ宗教財団イスラーム研究センターを運営するトルコ宗教財団 (Türkiye Diyanet Vakfı) は、宗務庁 (Diyanet İşleri Başkanlığı)^(注1)の業務を補佐するため、1975年に設立されたのをはじまりとする。この財団の具体的な活動としては、宗教に関する教育、ムフティー局 (宗務庁に属する地方機関。ムフティー [トルコ語はミュフテュ] はその長で、各県、郡に置かれている。地域の宗教管理など、宗務庁の業務を各地で担っている) の業務への援助、トルコ共和国における巡礼者のオーガナイズ、モスクへの援助などが挙げられる。

同財団は、1983年には百科事典 (後述) 刊行のため、トルコ宗教財団イスラーム百科事典部局 (Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi Genel Müdürlüğü) を設置する。さらに1988年には、研究者を支援するための組織であるイスラーム研究センター (İslâm Araştırmaları Merkezi) が設立され、前者の建物内で活動をはじめた。両組織は1993年にトルコ宗教財団イスラーム研究センターとして統合され、現在の形となった。現在のセンター長はアーキフ・アイドゥンであ

る。

その目的は、以下のように設定されている。

- (1) 知的研究を行い、特にイスラーム学と東洋学の分野における活動を促進する。
- (2) 編纂や翻訳、校訂の形で著作を出版する。
- (3) 『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』や他の出版物のために必要な活動を推進する。
- (4) 国内外において学問的集会を組織し、またこうしたプログラムに代表を送る。
- (5) 研究者の育成、援助。この目的に必要な活動を計画し実行する。
- (6) 研究のための図書館とドキュメンテーション部門を設立する。
- (7) 宗教省や国内外のアカデミックな組織との連携のもと、研究や教育、出版活動を準備し推進する。
- (8) 知的・宗教的テーマについて、一般を啓蒙する見解を提示し、出版する。

II 図書館

一般の研究者にとって、もっとも利用価値が高いのが図書館であろう。トルコ宗教財団イスラーム研究センターの図書館は、1984年の開館以来その蔵書数を着実に増やしており、現在の蔵書数は書籍16万5000冊を数える。トルコ語の書籍を中心とするが、ペルシア語、アラビア語や欧米諸語の文献も充実している。また、雑誌は2419タイトルを有し、その総数は計12万冊におよぶ。また、約650タイトルを継続購入している。さらにオスマン朝時代の法廷台帳関連のマイクロフィルムも収集されており、合計で1

万9144点の史料が所蔵されている^(注2)。

本図書館は、大学院生以上であれば国籍を問わず誰でも会員になり、利用することができる^(注3)。開館時間は9時から21時までであり、特定の祝日を除いて毎日開館している。図書のほとんどは開架式となっており、基本的に自由に閲覧することができる。ただし、貴重書や一部の古い雑誌・新聞は書庫に収められている。これらの文献も、別途申請することで閲覧が可能である。

大まかにいえば、1階は参考図書と新着雑誌にマイクロフィルム、2階は社会科学や宗教関係の文献、3階は雑誌と歴史関係の文献が納められている(写真2)。これほどの規模の図書を開架式で自由に閲覧できる機関はトルコ国内においては類例が無く、非常に利用価値が高いと思われる^(注4)。残念ながら貸し出しは基本的に認められていない。

また、閲覧室内のコンピュータからは、以下のデータベースを利用することができる。

- (1) トルコ宗教財団イスラーム研究センター蔵書検索：このデータベースだけは、インターネットからも利用可能である(他のデータベースはイントラネットにのみ対応している)^(注5)。雑誌に関しては一部が入力されておらず、閲覧室備え付けの雑誌目録を参照する必要がある。
- (2) 学位論文検索：トルコ各地の大学の学位論文を検索可能。現在、11万4000件が検索できる^(注6)。
- (3) 雑誌論文検索：トルコ語の雑誌を中心に、約58万件の論文を含む。
- (4) 他図書館蔵書検索：トルコ国内116の図



写真2 図書館閲覧室 (iSAM提供)

書館に所蔵される、約70万件の蔵書を検索可能。これには、写本も含まれている^(注7)。

これらのうち、特に利用価値が高いのは雑誌論文データベースである。欧米の雑誌はそれほど含まれておらず、トルコ語雑誌についても全体的な精度は完全というにはまだ遠いが、種類が多く把握が難しいトルコ語雑誌の論文を収集する際に大いに助けになる。データは随時遡及入力が行われており、今後ますます充実していくものと期待される。本センターの図書館に未所蔵の文献も、所蔵している図書館情報へのリンクが張られているといった充実ぶりである。

なお、図書館内では無線LANも無料で利用することが出来る。かつては台数が限られている検索性パソコンが混雑することがあったが、現在では持参のノートパソコンで蔵書検索を行うことができるのでそのようなこともなくなった。

複写は、1階のコピーコーナーでコピー担当者に依頼することで行う。複写を希望するページ数を書いた紙片を資料に挟み、コピー係に申請すると、数時間で複写を受け取ることができる。資料の状態が悪いときは断られることもあ

るが、基本的に出版年などによる制限はない。ただし、学位論文については全体の3分の1までという制限がある。費用は1枚40クルシユ(約3円)。両面コピーは可能だが、カラーコピーはできない。希望すれば電子データでも受け取ることが出来る(USBメモリ持参か、そうでなければCD-ROMで受け取る。この場合CD-ROM代が少し加算される)。短期滞在の場合、コピー用紙分荷物が軽くなるため、こちらがお勧めである。

Ⅲ 『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』

本センターの重要なミッションのひとつが、『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』(Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi, 略称DİA)の刊行である。もともとトルコ語のイスラーム百科事典としては、英語版『イスラーム百科事典』(*The Encyclopaedia of Islam*)第1版のトルコ語訳(*İslâm Ansiklopedisi*, 略称İA)が存在した。これはトルコ関係の項目に大幅な増補がなされており、現在でも利用価値が高いものである。

しかしトルコ宗教財団は、この英語版『イスラーム百科事典』トルコ語訳について、宗教的な項目などが不十分であると判断し、トルコ内外の研究者の総力を挙げた(総執筆者数は2000を超える)新たな百科事典の執筆を企画した。1983年にこの新しい百科事典の刊行準備が始まり、1988年に第1巻が刊行される運びとなる。2006年12月現在、第31巻(“Muhammediyye”から“Münâzara”までを含む)までが刊行されている(全40巻で完結予定)。総項目数は1万5441項目が予定されており、これは英語版『イスラーム百科事典』の第2版(約1万項目)より多い。

実際にこれを利用する研究者としての筆者の感想では、やはり歴史・宗教などを研究するさいに最初に参照すべき基本文献であるということが出来る。とくにトルコに関連する項目は、英語の百科事典よりも詳細である。ただ、項目によっては古いトルコ語訳『イスラーム百科事典』の方が優れている場合もあるため、両方を参照する必要はなお残っている。項目の内容は執筆者の力量に依拠する部分が多く、旧版の執筆者が優れた研究者の場合はそちらの方が充実していることがままあるからである。また、宗教的な項目は非常に詳細な反面、それ以外の項目はやや記述が短くなる傾向にあるように思われる^(注8)。

Ⅳ その他の出版活動

『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』以外の重要な出版物としては、『イスラーム研究雑誌』(*İslâm Araştırmaları Dergisi*)の刊行が挙げられる。これは、歴史・宗教など、広い意味でイスラームに関係するテーマについての学術雑誌であり、トルコで刊行されている学術雑誌のなかでは比較的良質の論考が収められている。1997年以来、現在13号まで刊行されている(2000年まで年1回、2001年より年2回刊)。論文本文も含めた内容を、ウェブサイトにおいてPDFファイルで閲覧することができ、非常に有益である。

本センターの事業やシンポジウムなどを知らせるニューズレターである『トルコ宗教財団イスラーム研究センター報』(*İSAM Bülteni*)は、閲覧室1階で無料配布しているほか、ウェブサイトでも閲覧することが出来る^(注9)。

単行本としては、図書館・文書館のカタログ^(注10)、コンフェランス・シンポジウムのプロシーディング集^(注11)、宗教的な啓蒙書^(注12)、アラビア語宗教書の校訂本^(注13)などが出版されている。

V シンポジウム等

2001年以降、毎年10月から5月までの期間、「トルコ宗教財団イスラーム研究センター月例コンフェランス」と銘打たれたコンフェランスが企画・実施されている。このコンフェランスでは、国内外から著名な知識人が招待され、哲学、宗教、歴史、文学などのテーマで講演が行われている。近年開催されたコンフェランスのうち興味深いものを幾つか紹介すると、ハーヴァード大学のオスマン朝史研究者ジェマル・カファダルを招いて、オスマン朝における改革とヨーロッパへのレスポンスが取り上げられた「オスマン帝国の衰退と崩壊についての問題」(2005年6月)、オックスフォード大学のリチャード・シンブルヌ教授による「神の存在」(2005年11月)、ヨーロッパ諸国とアメリカにおける政教分離の差異について、テネシー大学のヴィルフレッド・マックライを招いて行われた「アメリカの政教分離」(2006年1月)などが挙げられる。

本センターではまた、若手研究者育成のために、修士課程と博士課程の学生を対象としたセミナーを2004年以降毎年開催している。テーマは、イスラームの歴史・文化から西洋思想に至るまで幅広い分野に亘る。2006年春のセミナーでは、イスラーム神学・法学、詩学と社会、近代における神学、ライプニッツからハイデガー

までの西洋哲学などといった題目での講義が行われている。

VI 休憩所、アコモデーション等

トルコ宗教財団イスラーム研究センターの利用者は、ラマダン(断食月)以外は地下1階のチャイ(お茶)コーナーにおいて無料でトルコ・チャイを飲むことができる。研究の合間に研究者仲間とチャイで交流を深めることは、本センターでの研究を豊かなものにしてくれる。トルコ・コーヒーやソーダなどは有料だが、市価に比べて格安である。

付属の食堂では、3.5リラ(約280円)と格安で昼食(ラマダンの期間中は、昼食ではなく夕食にイフタール[断食月中、日没後に摂る食事]が供される。内容にそれほど違いはない)を提供している。もちろん、周囲に簡単なレストランやビュッフェもあるので、食堂に飽きた向きはそちらを利用することもできる。研究職に就いている者(大学院生は不可)であれば、ゲストハウスを利用することもできる。

本センターでは他に、研究者に対する助成金制度を設けている他、ゲストハウスが格安で利用できるなどの利点がある客員研究員制度もある。これらの募集時期などの詳細は、ウェブサイトを参照されたい。

(注1) 宗務庁については、佐島(1993)を参照。

(注2) 本研究センターに所蔵される、法廷台帳関連のマイクロフィルムは以下の通りである。

① イスタンブールのムフティー局所蔵：法廷台帳(9895点)、ルメリとアナドルのカザスケルの日録(377点)、ナキービュル・エシユラーフの台帳(33点)、カドウ・ミュヒュルレリ(13点)

② トルコ国民図書館所蔵：シャリーア法廷台帳

(8860点)

- ③ マケドニアのマナストゥル地方の法廷台帳 (185点)
 ④ サラエヴォの東洋学図書館所蔵：サラエヴォ、モスタル等諸地方の法廷台帳 (118点)

これらは一階に設置されているマイクロリーダーで閲覧することができ、やや高額 (1コマ1リラ=約80円) ではあるが複写も請求することができる。その場合、請願書 (dilekçe) が必要。

(注3) 大学院生以上の身分を証明するものを提示する必要がある。また、会員証製作に5リラ (約400円) と写真が請求される。会員証の受け取りまで数日かかるが、会員証がなくともゲスト用の入館証を入り口で受け取ることで利用可能。

(注4) 書架に閲覧したい書籍がない場合、『トルコ宗教財団イスラーム百科事典』の項目を準備している研究員が借り出している可能性が考えられる。その場合、受付でその旨申し出れば取り寄せて閲覧することが可能である。

(注5) ウェブサイト上で会員登録をした利用者については、将来的に他のデータベースもインターネット上で利用可能になると予告されている。現在の所、ウェブ会員の利点としては、開催されるシンポジウム等の告知が送られる程度である。

(注6) 検索できるだけでなく、本センターの図書館にも一部の学位論文が収められている。なお、近年のものはトルコの高等教育機構 (Yüksek Öğretim Kurulu, 略称YÖK) を通じてコピーを取り寄せることが可能である (<http://www.yok.gov.tr/>)。

(注7) 写本を利用することの多い筆者の感想では、未登録の史料が多く、今後の入力データの進展に期待したいところである。なお写本に関しては、トルコ随一の写本所蔵点数を誇るスレイマニエ図書館の蔵書が、最近インターネット上で検索可能となった (<http://www.suleymaniye.gov.tr/tarama.htm>)。これには、スレイマニエ図書館の管轄下にあるスールオスマニエ図書館、キョプリュリュエ図書館、アートゥフ・エフェンディ図書館、ハジュ・ベシル・アー図書館の蔵書も含まれている。

(注8) 例えば、オスマン朝の出身氏族であるオグ

ズ族の「カユ氏族」の項目 (“Kayı”) は、旧版と新版ともに同じ人物 (ファールク・スメル) が執筆しているが、前者ではまるまる4ページに及ぶ詳細な記述がなされているのに対し、後者では1ページ強に過ぎない。

(注9) 前身である『トルコ宗教財団イスラーム研究センター-KDM報』 (*İSAM-KDM Bülteni*) (1992年~1997年) はウェブサイトでは公開していない。

(注10) 2006年には、Bahadır et al. (2006) および Aydın, Yurdakul and Kurt (2006) という、歴史研究者にとって有用な2点のカタログが刊行されている。

(注11) Aslan and Yel (1996), İSAM (1997; 1998) など。

(注12) Topaloğlu (2006), Paçacı (2006), Gündüz (2006) など。

(注13) Ebü Ca'fer et-Tahâvî (1985-1988) やEbü Mansûr el-Mâtürîdî (2003) など。

文献リスト

<トルコ語文献>

Aslan, A. and A. M. Yel eds. 1996. *İslâm, Gelenek ve Yenileşme* [イスラーム, 伝統と改新]. İstanbul.

Aydın, B., İ. Yurdakul and İ. Kurt eds. 2006. *Bâb-ı Meşihat Şeyhülislâmlık Arşivi Defter Kataloğu* [シエイヒュルイスラーム序文書館台帳目録]. İstanbul.

Bahadır, Ö. F. et al. eds. 2006. *Hüseyin Hilmi Paşa Evrakı Kataloğu* [ヒュセイイン・ヒルミー・パシャ文書目録]. İstanbul.

Ebü Ca'fer et-Tahâvî [S. Ünal ed.] 1985-88. *Ahkâmü'l-Kur'âni'l-Kerîm* [高貴なるクルアーンの命令]. 2 Vols. İstanbul.

Ebü Mansûr el-Mâtürîdî [B. Topaloğlu and M. Aruçi eds.] 2003. *Kitâbü't-Tevhîd* [唯一性の書]. İstanbul.

Gündüz, Ş. 2006. *Hıristiyanlık* [キリスト教]. İstanbul.
 İSAM 1997. *İslâm ve Modernleşme* [イスラームと近代化]. İstanbul.

—— 1998. *Günümüz Dünyasında Müslüman Azınlıklar* [今日の世界におけるムスリム少数派]. İstanbul.

Paçacı, M. 2006. *Kur'an'a Giriş* [クルアーン入門]. İstanbul.

Topaloğlu, B. 2006. *Allah İnancı* [アッラーの信仰].
İstanbul.

(定期刊行物)

İSAM Bülteni [トルコ宗教財団イスラーム研究センター報].

İSAM-KDM Bülteni [トルコ宗教財団イスラーム研究センター-KDM報].

İslâm Araştırmaları Dergisi [イスラーム研究雑誌].

(インターネット)

Türkiye Diyanet Vakfı [トルコ宗教財団ウェブサイト]
(<http://www.diyantvakfi.org.tr/index.htm>)

Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Araştırmaları Merkezi [トルコ宗教財団イスラーム研究センターウェブサイト]
(<http://www.isam.org.tr/>)

<日本語文献>

佐島隆 1993.「トルコ・イスラームの一形態としての宗務庁——政教関係の一断面——」『イスラム世界』39/40.

[付記] なお、アジア諸地域における研究機関の利用方法を日本語で紹介した、東京大学東洋文化研究所のウェブサイト内「アジア情報ゲートウェイ」(<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>)における「図書館・文書館ガイド」のトルコのページ(秋葉淳氏執筆)には、本センターの情報も掲載されている。内容は随時更新されているので、日本語で最新の利用情報を確認したいときはこちらを参照すると便利である。

(日本学術振興会特別研究員)